

「森の名手・名人」に

(社) 国土緑化推進機構が、森づくりに関わる優れた技を持つ方を認定する「森の名手・名人」の加工部門に、鈴木正徳さん(字小森)が認定されました。鈴木さんは、若い頃の経験を活かして、学校や地域住民への炭窯づくり・炭焼きの実演や体験活動を実施しています。現在も河北地区の生涯学習推進会議の一員となり、炭焼きの指導者として活躍中です。



寿司のサービスに入所者大喜び

大留地区で寿司店を経営する名達政彦さんによる「寿司の出張サービス」が、特別養護老人ホームかみのくに荘で10月20日に行われました。

このサービスは、21年前に入所していた方にお世話になってきたことから、「自分の握った寿司を入所者に食べてもらい感謝の気持ちを伝えたい」という名達さんの思いから始まり、毎年継続して実施されています。出張サービスを待ちに待っていた入所者が、「おいしい！寿司が大好きなんですよ。」と喜んでいる姿に名達さんは、笑顔で答えていました。



料理を通じて食の大切さを学ぶ！

檜山漁業士会および(社)北海道水産会主催による「漁業士の出前授業」が、10月21日に湯ノ岱小学校で実施されました。

出前授業では、地元でとれた魚や野菜を用いて食育・魚食の普及を目的とした料理教室が湯ノ岱小学校児童を対象に行われ、サケをさばいたり野菜を切ったりと児童は悪戦苦闘しながらも一生懸命に取り組んでいました。

最後に、毎年「サケ稚魚放流式」でお世話になっている神明町内会の方を招待して、一緒に会食しながら交流を深めていました。



赤ちゃんとのふれあい

赤ちゃんとのふれあいで、「命の尊さ」を生徒に感じてもらうことを目的に10月12日・14日上ノ国中学校で、同校3年生を対象に「赤ちゃんふれあい教室」が行われました。

始めに、赤ちゃんが誕生するまでの過程を保健師から学んだ後、生徒が体に重りをつけて妊婦体験をしました。

最後に、赤ちゃんと実際にふれあい、参加したお母さんから育児の大変さなどを聞いていました。

